

戦争反対！ ロシア政府に 軍事攻撃の即時中止を求める

さいたま市教組新聞

編集・発行/
さいたま市
教職員組合
〒330-0843
さいたま市大宮区
吉敷町4-93-5
大宮教育会館2F
TEL 641-6763
FAX 648-3567
2022. 4. 11(月)
No. 278



ロシアのテレビ局員マリナ・オフシャンニコワさんによる番組中の「内部告発」に世界中が驚いています。情報統制を担う政府系メディアの生放送中に、『戦争反対。戦争やめて。プロバガンダを信じるな。彼らはうそをついている。ロシア人は戦争に反対する。』という内容のプラカードを掲げて反戦の声をあげた彼女の行動は、まさに生命をかけた勇気あるものでした。

今、世界各地で反戦のデモやロシアの侵略行為に抗議する集会が開かれ、連帯の輪が広がっています。ベルリンでは10万人規模のデモが、プーチン大統領の故郷サンクトペテルブルクでも大規模な抗議行動が、日本国内でも渋谷やロシア大使館前で集会が行われています。

3月19日の国会前行動では労働組合をはじめ宗教家等の様々な団体のメンバーが約千人集まり、代表者のアピールや「人命守れ」「侵略反対」「ロシア軍の即時撤退」の声をあげました。

市内でも抗議行動が取り組まれています。3月17日には、大宮駅にさいたま市内の労働組合や市民団体、民主団体のメンバーが集まり、ウクライナ支援の募金活動と署名活動を行いました。「防弾チョッキやヘルメットを送るより、人道支援のウクライナ侵攻に抗議する」

2月24日、ロシア軍がウクライナに侵攻しました。ミサイル攻撃や地上軍を投入し、首都キエフをはじめウクライナ全土を攻撃しています。ウクライナの街は破壊され、病院や原子力発電所さえも無差別攻撃を受けて、子ども、女性、民間人など多くの尊い人命が毎寒さの中でライフラインはストップし、避難を余儀なくされた人々

日奪われ続けています。1000万人以上に上り、国外への避難者も380万人を超えました。

ロシアのプーチン大統領は核兵器の使用にまで言及しています。これは核を威嚇の道具とするだけでなく、まかり間違えば第三次世界大戦を引き起こし、人類の滅亡にもつながる許しがたい行為です。世界が核兵器廃絶へと向かう歴史の潮流に逆行して、核使用をほめかすこと自体あってはならないことです。

日本は国際紛争を解決する手段として、武力による威嚇または行使を明確に否定する憲法9条を持つ唯一の戦争被爆国です。日本政府は、ロシアの侵略行為と核兵器による威嚇を厳しく批判するとともに、「武力で平和はつくれない」「核兵器は絶対に使用してはならない」ことを世界に向けて発信し、国際社会の団結と連帯を図るべきです。そして、武力による紛争の解決を永久に放棄した憲法9条の精神を、今こそ全世界に広め9条による平和外交を進めるべきです。

今、ロシア国内をはじめ、世界中の人々が「戦争反対!」「軍事侵攻をやめよ!」の声をあげています。戦争を止めるためには必要なのは戦闘機でもミサイルでも核兵器でもありません。「武力には武力を」という対応では、憎しみがまた新たな憎しみを生み出し、戦争の連鎖を断ち切ることができません。世界の人々はお互いを殺しあう戦争などのぞみません。一人ひとりの声は小さいけれど、「戦争反対!」の世界の人々の声を結集して、世界の人々と連帯することこそ戦争を止める最善の方法です。

私たちさいたま市教職員組合は、ロシア政府の暴挙を許しません。ウクライナで尊い人命が奪われて、人々のかけがえのない未来が閉ざされていくことを傍観する訳にはいきません。私たちはロシア政府にウクライナ侵略の即時停戦・撤退を強く求めます。(2022年4月1日)

市教組声明

署名をロシア大使館、ウクライナ大使館に届けました。埼玉平和委員会から

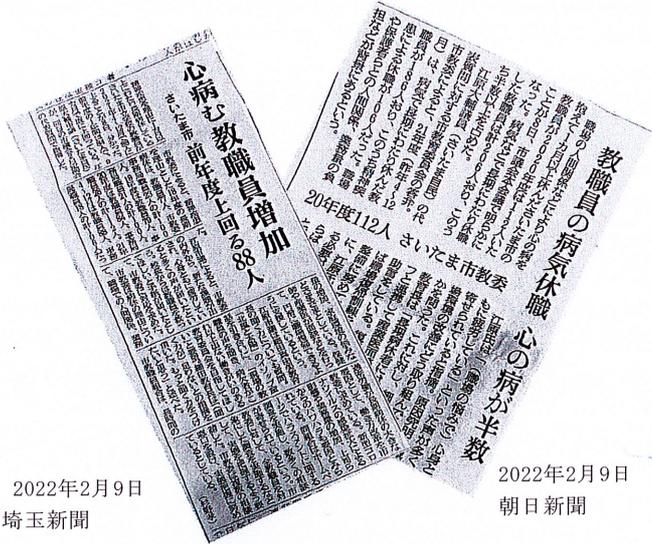
らの緊急の署名要請ではありましたが、五千筆を超える署名を集めました。ウクライナ大使館では急にもかかわらず、日本語ができる職員を配置して対応してくれたということです。参加した高校生からは「もっと勉強して運動を広げたい」等の感想がありました。

私たちも、平和を希求する世界の人々の活動とつながって、反戦・平和の大きな流れを創り出していきたいでしょう。

市内でも抗議行動が取り組まれています。3月17日には、大宮駅にさいたま市内の労働組合や市民団体、民主団体のメンバーが集まり、ウクライナ支援の募金活動と署名活動を行いました。「防弾チョッキやヘルメットを送るより、人道支援のウクライナ侵攻に抗議する」



署名をロシア大使館、ウクライナ大使館に届けました。埼玉平和委員会から



教育長 「聞く力」は 発揮されるか?!

問われる 市教委の対応

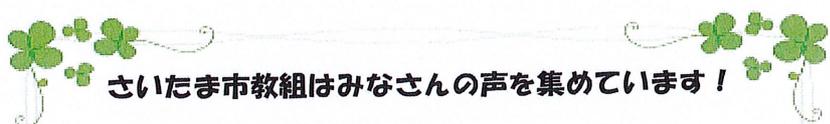
精神疾患を理由に1カ月以上にわたり長期病休している市内教職員が2021年4月〜12月で、88人になるとマスコミ(2/9付け朝日新聞・埼玉新聞)が報じています。市議会で江原大輔市議(さいたま市民)が指摘してわかったもので、この数字は前年度の1年間84人を9カ月で既に上回っています。

同議員は、さらに、市教委の内外から、新たな課題が出され、心身ともに疲労していると多くの声が届いたといい、また、校長からは教職員を救ってほしいと手紙が届いたとして、これへの対応も求めています。これに対し市教委は、休職する原因を様々あげ、「保健師や産業医が面談などを行って、円滑に職場復帰できるように支援している」と答弁しています。

また、同議員は「現場の教職員の声を聞き、病欠者がこれ以上出ない働きがいのある教育委員会を目指してほしい」とも要望しています。これに対し、細田教育長は、「(聞く力が)足りない」との指摘を頂いた。もつと聞く力をつけたいと思う」と述べたともマスコミは報じています。

さて、この報道を見るかぎり、市教委は、原因をあれこれ言うことと、事後の手立てはいうものの、病休者増加を止める

課題や問題を感じていませんか



みなさん、2021年度はどんな1年だったでしょうか・・・。
 コロナの対応やそれに伴うオンライン授業、突然始まったハイブリッド授業、スタディサブリの導入、文科省の方針とかけ離れたさいたま市の小学校における教科担任制問題、GIGAスクール構想に基づく「さいたま STEAMS TIME」の実施など・・・、トップダウンによる教育施策の問題から、職場のパワハラや管理職の対応、代替が配置されない未配置・未補充問題や育児短時間勤務制度や不妊治療のための休暇が取れないなどの権利が行使できない問題など、課題や問題に感じられることはなかったでしょうか。
 わたしたちさいたま市教組は、みなさんの声に耳を傾け、それをもとに新聞でお伝えしたり、団体交渉の項目に取り上げたりしていきたいと思っています。ぜひ、組合員はもちろんのこと、組合員でない新聞読者の方もお気軽にみなさんの声をお寄せください!

(組合員・未組合員)

(職場名) _____ (学校) (お名前) _____

* 差し支えなければ、職場とお名前をお知らせください。勝手に公表することはありませんのでご安心ください。難しい場合は、匿名でも結構です。
 締切は、4月28日(木)までとします。

- 「お声」の届け方は以下の方法からお選びください。
- ①この用紙に記入し、職場の組合員にわたす。
 - ②この用紙に記入し、「植水小学校 読問恵理子」に郵便で送る。
 - ③さいたま市教組にFAXで送信する。048-648-3567
 - ④さいたま市教組にメールする。saitama@kyouiku-net.org
 - ⑤さいたま市教組ホームページ欄にある「お問い合わせ」に書き込む。

根本的な施策(新たな課題が出され、現場の負担が増えることについての改善策)は何ら答えていません。教育長にいたっては、「聞く力」の改善のみを述べるだけで、病休者をださないうための根本的な改善策を何ら打ち出ませんでした。

という「聞く力」については、私たちさいたま市教組が「教育長の『トップダウン』施策は問題である」として、これまで再三指摘してきたことで、現場教職員からの指摘にはまともに答えず、議員から指摘されると、場当たり的に「聞く力を

答弁をされても、にわかには信じがたいものがあります。病休になつてしまいう教職員を本当になくしたいならば、今こそ「聞く力」を発揮して、現場の声を聞き取り、これまでの施策を謙虚に振り返り、現場の加重負担を減らすなどの具体的な改善策を講

ずるべきです。そのことこそが、市民の願いを反映する場である議会での真摯な答弁だと思えます。市教組は、教育長の「聞く力」が掛け値なく発揮されるよう、これからも具体的な改善策が実施されるよう、市教委に強く求めています。